

議長定例記者会見 会見録

日時：令和5年9月13日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

令和5年度 第1回みえ現場de県議会「若者とこれからの地域づくり」を開催します！

令和5年度 第1回三重県議会「議員勉強会」を開催します

2 質疑項目

みえ現場de県議会について

ブラジル訪問について

一見県政2年を振り返って

1 発表事項

令和5年度 第1回みえ現場de県議会「若者とこれからの地域づくり」を開催します！

(議長)おはようございます。ただ今から9月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。それでは発表事項に入らせていただきます。本日は二つの発表事項がございます。まず一つ目。令和5年度第1回みえ現場de県議会「若者とこれからの地域づくり」の開催について発表させていただきます。具体的な内容につきましては、広聴広報会議座長であります杉本副議長から説明させていただきます。

(副議長)おはようございます。よろしくお願いいいたします。それでは、令和5年度みえ現場de県議会の開催についてご説明申し上げます。お手元の資料、発表事項1をご覧ください。まず、開催趣旨でございます。令和5年4月の三重県議会議員選挙の投票率は、過去最低の41.52%であり、とりわけ若年層の18歳から29歳の投票率は低い水準となりました。また、三重県議会が実施しました県議会の現状や議会改革の取り組みなどについての県民意識アンケートでは、特に若年層において「議会の活動が分からない」との結果が示されております。そこで今回のみえ現場de県議会では、「若者とこれからの地域づくり」をテーマに、当事者である若者たちが政治や議会をどのように捉えているかなどを直接聴くとともに、社会の一員として地域社会への貢献に取り組んでいる学生の皆さんなどと、「若者の政治への関心を高めるための方策」や、「若年層の投票率の向上」について意見交換を行い、今後の議会での議論に反映させていきたいと考えております。日時は11月21日火曜日、18時から

20時。場所は伊勢市にありますシンフォニアテクノロジー響ホール伊勢、大会議室3および4です。参加者は、県内に居住、通勤、通学されている15歳から29歳までの方など、30人程度です。地域社会への貢献に取り組んでいる皇學館大学の学生、玉城町役場の地域つながり特命係の若手職員の方にご参加いただく予定です。この方々に加えて、若年層世代の方を一般公募し、合計30人程度の方と意見交換をさせていただきたいと思っております。三重県議会からは、正副議長、広聴広報会議の委員、そして今回のテーマに関わりのある総務地域連携交通常任委員長の計12人が参加をいたします。続いて資料の裏面をご覧ください。一般公募についてです。先ほど説明いたしましたように、意見交換に参加をしていただく高校生、大学生などを含む若年層の皆さんを本日から9月29日金曜日17時までの期間で募集をいたします。応募フォームに必要事項を記入してお申し込みいただく形として、最大20人程度を募集いたします。内容といたしましては、複数のグループに分かれての意見交換を行い、その後、全体交流を行います。傍聴は事前申し込み不要で、どなたでも傍聴いただけます。報道機関の皆さまにおかれましては、事前の情報発信や当日の取材等につきまして、何卒どうぞよろしくお願いを申し上げたいと思います。私からの説明は以上です。

令和5年度 第1回三重県議会「議員勉強会」を開催します

(議長) 私からもよろしくお願いをしたいと思います。続きまして令和5年度第1回三重県議会「議員勉強会」の開催について発表させていただきます。お手元の資料、発表事項2をご覧ください。県政を取り巻く諸課題の解決に向け、議員間における共通認識の醸成とさらなる理解の向上につなげるため、議員勉強会を開催します。日時は10月4日水曜日13時30分から、場所は全員協議会室で開催いたします。講師は横浜商科大学の名誉教授の羽田耕治様。演題は、「三重の魅力を生かした、これからの観光振興」です。講師のプロフィールにつきましては裏面のチラシをご覧ください。三重県では、「みえ元気プランで進める7つの挑戦」の一つに、「三重の魅力を生かした観光振興」を掲げ、戦略的な観光誘客の推進と質の高い観光地づくりに取り組むこととし、令和5年度は次期三重県観光振興基本計画の策定を進めています。県議会においても、今後の三重県における観光振興の在り方について議論をさらに深めるため、地域の観光振興に関わるさまざまな調査や計画づくりのコンサルテーションに関わってこられた羽田名誉教授から、地域の魅力を生かした観光振興のために必要な視点や取り組み等についてお話を伺います。この議員勉強会は、どなたでも傍聴可能でございますので、関心をお持ちの方はぜひお越しいただきたいと思っております。本日の発表事項は以上でございます。

2 質疑応答

みえ現場 d e 県議会について

(質問) 幹事社です。どうぞよろしくお願いいたします。1点目の、第1回みえ現場 d e 県議会の件に関連でお伺いしたいんですけども、開催趣旨のところ、県民意識アンケートの中で若年層において「議会の活動が分からない」との結果が示されておりますけれども、改めて県議会として、なぜ議会の活動が若者に伝わらないのかっていう、どういうところにその原因というか課題を持ってらっしゃるのかっていうところをちょっとお聞きできればと思います。

(議長) 前期の議会の議会改革推進会議で、いろんな4年間の活動について整理した段階で、昨年にアンケートを実施したという実情がございまして、その中の結果が特に若年層に、具体的に言うと数値が低かったということは、年齢別の様子を見ても事実でございまして。これはどこに起因するのかなということについては、まだまだ十分な検証はできませんけれども、少なくとも数値が低かったというのは事実でございまして。そのためには、やはり直接若者から機会を作って意見を聞くのが良いのではないかというのが昨年度までのお話でございまして。期が変わりまして、新たな議員もできましたし、広聴広報会議で積極的なご意見が出されながら、この計画になったと伺っております。

(質問) 資料の中で若年層の投票率が低い水準となりましたとありますけれども、実際に投票率、この18歳から29歳の投票率が何%だったかというのを教えていただけますでしょうか。

(議長) この4月に執行されました三重県議会議員選挙における10歳代、20歳代の投票状況についてデータを見ますと、18歳から24歳までが、22.56%、さらに18歳から29歳を見ても、24.24%という数値でございまして、非常に低いですね。

ブラジル訪問について

(質問) 発表事項以外で、ちょっと私から改めて質問させていただきます。議長、先月の19日から知事とともにブラジル訪問をされていたと思うんですけども、今回の訪問の成果についてですね、議長としてどのように捉えてらっしゃるのかっていうところをお願いします。

(議長) 成果は、議長としての思いと、三重県全体の成果というのは、少し違うんですけども、三重県としての成果については、もちろん知事から皆さまにお話していただいたと伺ってございまして、これはちょっと重複しますので控

えさせていただきたいと思いますが、私もこの機会を通じまして、三重県がサンパウロ州ならびにサンパウロ州市議会など、一緒に同行させていただいて、非常にさすがにブラジルの日系の方は、熱心さというかこれまでのご苦労というのが十分伝わってきました。特に三重県とのゆかりのある方との関係も、私も知らなかった部分を発見というか知ったのがあったり、非常に私としても、三重県が10年前に訪問した時から、この間交流が進んでいたという内容が伝わってきました。ただコロナ禍で少し今中断というんですか、なかなか距離もありますので、途絶えるというかちょっと厳しい移動の条件があったということで、こうやって今回、三重県知事始め、私も含めて訪問させていただいたことによって、周年記念とはいえども新たな発見といいますか、思い出したと言いますか、やはり親日の方が多いということも含めまして、多くのブラジルの方から、日本はもとより三重県に就労されたり、また親戚関係のご縁が深かったりということがあります。私個人的な話で恐縮なんですけれども、たまたま10年前に、民間の方も一緒に行ったということを知りまして、その中の一つが、いわゆる県人会の中に、発足当時からいろんな関わりの深いというのが、武道に関するところが、三重県人会の中で、日本で培ってきた伝統を綿々と伝えていたというのを聞きまして、私たまたま剣道やってますということもありましたし、三重県の剣道連盟を今させていただいている立場から、関心が少し高い部分がございますので、予定を追加して、私から積極的に三重県人会の剣道部の練習風景や関係者と懇談の機会を設けさせていただいて、この10年間に交流をした、JICAを使って交流されたお二方の話をしたり、いろんなことをお話させていただいて、これからもそういう意味では交流が深まっていければなど、こんなふうに感じました。非常によかったと思います。

一見県政2年を振り返って

(質問) 一見知事が明日の14日で就任されて2年ということになりますけれども、議長としてこの2年間の知事の取り組みであったり、県政に対する姿勢という部分、評価というんですかね、何かご意見あれば聞かせていただければと思いますけれど。

(議長) 2年経過ということにつきましては、まだ中間的な判断をする段階ではないですけれども、1年経った時に、いろんな調査ではないけども少しアンケートがあったように気がしまして、私のみならず三重県議会のそれぞれの議員のメンバーの意見を総評しますと、評価が高いというか低くはないと言った方がいいですか、ということと、それから前知事との比較論になってしまいますので、タイプが違うわけですので、必ずしもそれが比べてどうかということはいえませんが、控えさせていただきますけれども、やはり当時の職の経験を生かされた内容

が顕著に表れているとか、お人柄が、そういう意味で行政に対する関わり方というの、より深く深く関わっている方だというような評価を聞いているところでございます。今後、そういう意味からも残された期間をしっかりと進めていただければなと思いますし、具体的には、みえ元気プランなどを発表されまして、議会としっかりと対峙するものの、しっかり意見も申し上げたところでございます。さらには昨年度の施策についても、三重県議会でそれぞれ意見を出し合って、県政に関する意見を申し上げたところでございます。その後、定例会議には、その報告が知事からあろうかと思えます。三重県議会から意見を申し上げたところについて、しっかりと反映していただくのは当然ですが、共に両輪のごとくといいますか、二元代表制のもしっかりと取り組んでいただければなと思うところでございます。

(質問) 関連でもう一つ。先ほど県議会の中でも評価が高いというようなお話ありましたけれども、具体的にこういった部分で県議会の中で具体的な取り組みであったりとか姿勢の部分、どういうところで評価が高いのかというところとですね、前職を生かされた部分が顕著に出ているということでしたけれども、そのあたりこういったところに出ているというふうに感じられるか教えていただけますでしょうか。

(議長) そうですね。特段何をするから評価が高いとか、どういうことをもってというの、まだまだ十分皆さまに発表させていただく内容には至っていないわけですが、少なくともこれまで前任者がすでに決めたことについて、もちろん議会と相談し、議会も議決した内容については、素直にというか、しっかりと忠実にしていただくことについては議会として非常に評価が高い理由の一つでございます。加えて、さらに知事から新たな提案されている内容が少しずつ出てきておりますので、これからその議論を踏まえながら、評価にプラス加点していくのではないかなと、このように思いますけれども、まだまだ知事と職員に対する小さな問題点があります。それから特にあってはならん事態の事件、事象が発生しているのは、別にこれは知事がどうかということではないんですけれども、そういう事象というのは、どなたが知事されても事象が発生した場合の対応については、即座に議会に報告されたり、即座に検討会、調査をされている様子を伺って、それについてはしっかりと、まだ結論出ませんけれども、対応していただけるものと思っているところでございます。

(質問) 内容がオブラートに包み過ぎて。新たな提案が少しずつ出ているというところは、具体的に新たな提案というのは何かあったんですか。

(議長) 新たな提案というのは、やはり議案に出てくるものですので、これは新たな提案はすべて議案として現れてくるわけで、何を今日準備しているということは実はないわけですが、どう言ったら皆さま方に伝わるのかなというのが少しありますけれども。ちょっとコメントしにくくなりましたけれども、チャレンジした7項目だけを見ても、組み立て方が違うのは確かですね、挑戦するということが、確かに今までと違うというのは間違いのない事実ですね。挑戦されるってことは、それはもう当然せなあかんやんかということの特筆して並べていただくだけでも、割と分かりやすいと。積極的に言うなら、子ども子育てに対する、やはり少子化対策に取り組むというこれまでも当然やってきたので、前任者がさぼったということではないんですけども、特出しをしながら、具体的に進めようとされているのが表れています。パッケージも、これはそんな手があったのかと私は思ったんですけども、当事者からするとそれは関係ないですね、すでにある施策をしてるわけで、財源を市町に委ねながら、市町に浮いた分を自主性に任せるといような、こういうテクニックというのはちょっと考えにくいというか、市町長からすれば、そんな言われてもという市町長もいるかもわかりませんが、でも確かにそういう形を持って、これまでできなかった一定ラインのアンダーラインのところできっと守っていかうというのが一般的な都道府県知事の考えが多いんですけども、それを少し乗り越えながら誘導されているというか、積極的に誘導していかれている姿勢が表れているのは事実ですね。

(質問) あと、あつてはならない事件や事象、知事だからというわけではないというご発言もありましたけど、これは虐待の事件を指しているということでしょうか。

(議長) 特に挙げれば虐待の事象があつて、死亡に至ったということについては、非常に断腸の思いというのは、当然知事の思いも我々も同じ思いでございますし、これを何とか食い止められなかったのかなというのは、我々の思いですけれども、だからといって過去に戻れませんし、命は戻ってこないわけですので、そういうことをしっかりと、こういう事象がないのに越したことはないと言いながらも、結果的にあつた限りは、これは素直に受けとめながら、現在の県の姿勢、体制、それからいろんなマニュアルがあるじゃないですか、そういうことについて見直していただいて、具体的には、人員増だけではないんですけども、そういうのも少しずつできることからやっついていこうということが表れているのではないかなと。こないだ発表されてましたので、それを議会も理解をしています。

(質問)もう1点だけ。県政運営の進め方、一見県政の、例えば課題意識であったりとか、注文をつけるのであれば、どういうところかというのはありませんか。

(議長)これはちょっと本当に個人的な意見になってしまいますので、皆さんの前で発表するコメントにはちょっと至らないかも知れませんが、やはり議会からすれば、顔の見えるというか、心が通じ合うというのか、そういうところが私は重要とさせていただいて、前知事の場合は、私個人的というのかそれは会派によって違うかも知れませんが、少なくとも知事になる前から存じあげてるといふか、タイプが分かっていたということに比べますと、一見知事におかれては、それまでのことはあまり具体的には承知してないというのが私だけではない、すべての議員や県民ではなかったのかなと。これは事実だと思います。それはちょっと不安といふか心配事ではありましたけれども、徐々に払拭していただいているのではないかなと思います。

(質問)同じく、杉本副議長にもお尋ねしますけれども、一見県政の現在の評価、それから、もし課題がある問題点があるとすれば、どういうところでしょうか。

(副議長)先ほど議長が申し上げたことと同じ評価でございますけれども、児童虐待致死事案について、第三者委員会の設置はすぐにしていただいて、その結果を待つことなく庁内での議論を重ねながら、要対協の責任の在り方であるとか、それから児相の強化であるとか、その辺りのところを進めていただいております。それから防災についても、オペレーションルームをしっかりと設置をしたりとか、そういう緊急のところに対する対応は、きめ細かに、迅速に対応される方だなと評価をさせていただいております。あと今後のことですが、これも議長と重なりますけれども、まだ市町長の方と対談をされてないところもあったりとか、いろんな分野の方と意見交換がまだこれからということもあるかと思います。代表質問でもその辺りのところ出ておりましたので、やはり直接会って意見交換する中で、深く分かるところもありますので、その辺りを今やってらっしゃると思いますけれども、さらに進めていただけたらと思っております。

- 第二県政記者クラブも含めてお願いします -

みえ現場 d e 県議会について

(質問)では、振り出しに戻って。発表項目のみえ現場 d e 県議会ですけど、

これはなぜ今回伊勢なんですか。

(副議長) 若者ということで、まず大学生にご参加いただけたらなということで、大学のある市町の中で、まだ未開催の市ということで、伊勢市を選ばせていただきました。今までの資料として、開催の市町が書いてあるペーパーをつけさせていただいておりますけれども、四日市、鈴鹿、津は開催しており、名張も開催しておりますので、残るところは伊勢市ということで選びました。

(質問) これを拝見すると、開催趣旨とキャッチコピーというかテーマが合っていない感じがするんですね。趣旨は少なくとも議会への関心が低いと書いてあるのに、テーマは若者とこれからの地域づくりじゃないですか。本来ならば、仮にですけど、県議会参加への意識醸成とか、なんかそういうふうなテーマだったら合いますやん。でもそこんところ違いますやんか。なんかずれている感じはなぜですか。

(副議長) ちょっと欲張り過ぎたのかも分かりませんが、先ほどの若者の政治参加の関心が薄いのはなぜかっていうところとも関連すると思うのですが、やはり自分の身近な暮らしであるとか、地域社会の有様や現状と、実は政治は繋がっているっていうあたりの認識が、まだまだこちらの努力不足でできてないなと思っております。若者の政治離れっていうあたりが、自分と政治との繋がり、議会との繋がりが認識できないという状況にあると。そこは主権者教育の課題としても問われているところなんです。ですので、投票率を上げる、若者が政治に参加をしていただくことが何に繋がっていくのかっていうあたりのところまで議論ができたらいいなと思って、非常に欲張ったテーマになっていますよね、若者とこれからの地域づくりって。投票率の向上がどこに結びつくのかっていうあたりをねらったテーマにしているのですが、ご指摘のような捉え方になるところは否めません。

(質問) だから投票率うんぬんとかそういうことを、仮に若者への政治離れっていう政治への関心が薄れていると、そこをもしテーマにするならば、例えば人口の多い北勢地区でやるとか、確かに伊勢市は今までこれやられてないみたいだけど、津市とか四日市とか何度かやってるし、それからいったらそこは重なってもですね、一番人口の多いところでやったっていいわけだし、大学生だって四日市大学もあるわけだから、あえて皇學館大学にする必要もないし、その辺がなぜこの伊勢市に持ってきてるのかよく分からないし、うがった見方をすれば、衆院選四区の関係とかで、そこの掘り起こしをしたいんじゃないとかそういううがった見方もできるし、その辺の整合性がつかないわけですよ。

その辺は一応十分考えられたんですか。

(副議長) 全く今ご懸念いただいたことはございません。もう一つ皇學館大学について、伊勢市にある大学は皇學館大学なんですけれども、皇學館大学は実は三重県の選挙管理委員会と伊勢市の選挙管理委員会と協定を締結していただいている、どんな協定かと申しますと、選挙啓発の連携協力に関する協定を、令和2年度に結んでおります。大学の学修プログラムでCLL活動、コミュニティー・ラーニング・ラボっていう活動があるんですけれども、その中に若者の投票率アッププロジェクトを設けていただいて、この3年間、皇學館大学の学生と選挙管理委員会と一緒に、若者の投票率アップの取り組みをしてきていただいております。その中での学生たちの気づきであるとか、そういったところがたくさんホームページ等で紹介もされておりましたので、その辺りの学生たちのご意見をお聞かせいただけるといいなということもあって、伊勢市、皇學館を選ばせていただいております。

ブラジル訪問について

(質問) 納得はしないですけど、じゃあ次の項目。ブラジルですけど、議長にお伺いしますが、一つは、議長は居合でしたっけ、それはいつぐらいからやられているんですか。

(議長) 私の居合歴は、剣道歴は中学生からですけども、居合歴は20代後半からです。

(質問) 剣道そのものは中学生からおやりに。

(議長) そうです。

(質問) 有段者ですか。

(議長) そうです。

(質問) 何段。

(議長) 剣道五段です。

(質問) 知事もなんか合気道やられてたみたいですけど、何かそこで知事の方も披露するとかそういう話は出なかったですか。

(議長)それはなかったですけども、私の場合はね、私は積極的に差し込んだとか、無理やり割り込んだというわけではなく、そもそも予定表を見たんですセレモニーの。見たら三重県から阿修羅を披露することを見たり、それから向こう様から、実は剣道の型を披露するということが、知ったわけですよ。誰がするのって聞いたら、JICAでそのお二人が三重県に来られて、そこで縁があって、剣道を磨いた、その成果を見せたいという趣旨で披露されると後で聞いて、せっかく見せてもらうならお返しというんですか、こちらからも、知事になにかしてということではなく、私でできることで何かお手伝いすることがあればということでした。

(質問)あとブラジルの成果ですけど、実際問題ですね、サンパウロ州との確認書とかMOUは結ばないで、今後結びましょうという話だけで終わって帰ってきてるじゃないですか。これだったら別に事前の電話連絡等で向こうのサンパウロ州の職員と三重県職員でやりとりしてるそこだけで済んでる話じゃないですか。わざわざブラジルくんだりまで公費使っていく意味っていうのは、ほとんど感じられないですよ。実際問題10年前には確認書を結んでるわけですよ。杉本副議長も行かれてよくご存知みたいですけど、結んだだけで何も経済発展はしてないわって、一見知事かばってられましたけど、でも10年前には州知事にも会って確認書も結んでるのに、今回は州知事にも会えてなくて、なおかつ確認書も結んでないと。確認書を結びましょうという約束だけで終わってるっていうんだったらこれブラジルの成果と言えますか。その辺議会としてはどう思います。

(議長)ご質問の趣旨は分かりまして、成果が結果ですぐに出れば非常にそれはいいことだというのは分かります。ただ、その日にサインするかしらないかというだけをもって成果というのは、ちょっとそうは当たらないのではないかなと思います。少なくとも副知事や関係者が同席した中で、私は隣で話を聞いているわけですので、州知事が来られるのを期待するのは当然私も一緒ですし、結果的にはそういう結果というのは思います。ただ私もその後、州議会に行きまして、州議会の議長となかなか会えなかったんですよ。私は粘り腰で会うまで帰らんと、本当ですよ。知事一行はもうすでに議長を残して帰るわと、会えないんだたらと。それは州議会の議長の話ですけども、議会運営の関係で何か質問が長引いて、もうごめんなさい、もうなかなかという感じで断られると思いました。そんなせっかく来てね、帰るわけにいかないということで、30分以上、もう1時間近く待ったと思うんですよ。それでお会いできて、お会いしたら本当にいろんな意見交換したら、議場のほうから昔の話をマイク

持ってしゃべり出したり、駆け上がってきて私に握手を求めてきたり、2人おりましたね、その昔話の話。昔話、聞いても分らないですけども、そんなことで、非常に懇意にされた議員さんがおられたということを見ますと、そのMOUの知事同士の話は当然知事同士でしょうけれども、州議会としても、そのことについてはやはり高く評価してるというか期待をしてるところが分かるわけですよ、私はね。議会の議長とお話しただけでも。そういうことから見ますと知事同士のトップ同士の単なるパフォーマンスだけではないんだと、州議会挙げて三重県とのコミュニケーションを深めながら、今後の交流を深めていこうという意思が私にも伝わってきましたので、私は大きな成果があったと思います。

(質問) だから、それだったらその成果っていうのは、その場で署名して互いにそれを交わすというのが本来じゃないですか。単に今後そういうの交わすよって話だけなら、電話連絡でもすでに交渉入った段階で済んでいるわけだから、だからそれを成果と言わない。大体、電話連絡してサンパウロ州政府と交渉を持った段階で、本来なら確認書を結ぼうということで行ってるわけですよ。それが結果的に詰めが甘くてできなかったから結ばなかっただけじゃないですか。それを成果とは言わないでしょう。逆に言ったらそれはやっぱり結ぶべきだと見るのが普通議会人の見方だと思いますけどね。

(議長) ご質問の趣旨はよく分かります。当然、私もその場で署名の場があるのを想定してました。日程見て州知事が同席されていないのが後で分かって、州知事不在のままのようにされるのかなというのは少し一抹の不安を感じてまして、望ましいのはその場で署名を交わされるのが望まれるというか、それが本来あるべき姿ではないかなというのは、私も思っております、一見知事も非常に歯がゆい思いというか残念がってたというのは私分かりましたので、まあまあそう言わんとと、こちらはなだめたぐらいでございますので、その代わりに私は州議会の議長とお会いして、フォローではありませんけれども、そういう意味では一方では少し結果プラスになったんですよという話をしておきましたので、そういう状況についてはご指摘のことはあろうかと思えます。

(質問) だから、一つは知事会見で聞いた時に知事は否定されましたけど、国際戦略課が雇用経済部から、今回、旧戦略企画部、いわゆる政策企画部に移ってるんですけど、そこで単独でやってるじゃないですか。その組織をいじったことの結果として、雇用にいた時ならうまくいったのに、10年前はそうでしたから、だからそれがうまくいってないんじゃないかと組織上の問題があるんじゃないかということをお聞きしたけど、当然知事は否定しましたけど、

その辺は議長は何かお考えありますか。

(議長) ご指摘されてるということでございますし、知事が否定されたということですがけれども、やはりそれは冷静というか素直に受けとめながら、改めるべきことがあれば改めるし、積極性がないという部分があれば、今回を契機としてさらに具体的にフォローしていかなくてはいけないのかなと思います。

(質問) あとミッション団がないじゃないですか、この知事の場合は。最初台湾行かれてスペイン行かれて今回ブラジルです。前知事とかの場合は必ずミッション団組んで、ミッション団がなぜないのかっていうことを知事会見で聞くと、知事は必ずしも知事にミッション団はいらないと。首相が海外行く時にミッション団組んでないと。国政と地方自治体は違うと思うけどそういうことおっしゃるわけですね。でもこの前の会見ではやっぱりミッション団が必要だみたいなことおっしゃってるんで、そこは揺れてはると思うんですけど、基本的にミッション団で行ったほうが向こうのほうの扱いも違うし、ある程度の人數ボリューム感があると観光消費額、向こうへの観光消費額もありますから、歓迎の度合いも全然違うじゃないですか。それからいったら、議長としてはやっぱりミッション団は同行したほうがいいのか、それとも知事がおっしゃるように首長一人でいいんだというふうな、どっちのお考えですか。

(議長) ご質問の内容から見て、比べればミッション団があったほうがいいかなと思います。ただそれでね、知事の弁明する必要はないんですけども、知事はどのように思われてるかというのは、すでに皆さま方にお伝えしてますので、それについては控えさせていただきます。

(質問) だからそれは県経済産業界との溝ができてから誰も手を挙げてこないんじゃないかって、そこに知事は反省の気持ちはないのかとも聞きましたけど、それについてはお答えをいただけなかったですが、いろいろ産業界とか聞いていると、実際今、隙間風が吹いているのは間違いないですよ。その辺団体交渉とかいろいろ今、各党派というか、県議会でやられていますが、実際、県内経済団体等からそういう声は聞かれてないですか。

(議長) 直接は何っていませんけれども、今おっしゃられている内容については、それは知事とて間接的に状況を見て、少なからず感じ取られているというんじゃないでしょうか。また、皆さま方からもご指摘をされているわけでございますので、それをしっかりと受けとめているんじゃないかなと思います。

一見県政2年を振り返って

(質問)あと就任2年のさっきのお話で関連というかなんというかお聞きしますけど、評価が低いというふうにおっしゃっていますが、議会として、これ本音で話したいですけど、本当にそう思われていますか。少なくともビジョンであるとかプランであるとか、これを議会との約束を破って半年遅れて出しているんですね。なおかつ人口減少対策方針もそうです。ほとんど先送りできてるじゃないですか。岸田政権そのものが今、検討使という異名というかあだ名がついていて、要は検討しますと先延ばしするから検討使って言われているらしいんですけど、それと似たようなことがこの三重県政、一見県政ではやられているじゃないですか。だって具体策は何にも出てこないじゃないですか。四日市港のカーボンニュートラルにしたって、課題見つけただけでじゃあ今後どうするかっていう対策はまた1年練るって話ですよ。それからいくと、各施策がこれだけ先延ばしされていて、しかも2年も経って、これから期待できるのかということ含めたら、特に議会との関係でいったら、議会の約束は結構守られてきてないじゃないですか。これを議会人としてはどう思われますか。

(議長)ご質問の趣旨からすると、評価の時点というか、どの段階でどういう内容を評価するかということでございますので、そういうことに限ってというか、それだけを注目すれば、仰せのとおりそういう一面があるのは承知しております。よって、そのために本会議で代表質問があり、一般質問があるわけでございますので、それぞれの議員がそれぞれの分担をして、会派として質問をされ、その答弁によって払拭すべきものは払拭、それから素直にお認めになられて改善すべきところは改善していただくということに尽きるものと思います。すでにこの2年間については、ご指摘のことについては十分承知していますので、評価する段階として、今後それは大きな影響があるのはもう十分可能性がありますので、1年後、2年後には新たな評価として、私も含めて評価されるのではないかなと思います。

(質問)少なくとも議会の中で、新政みえさんとかの会合等で、三谷さん自身が、スピード感がないと。それと、国が決めているそういう取り決めをあえて踏み出そうとしないというふうなことをもろもろ挙げて、他の新政みえの議員の方が、でも製造者責任ありますよねって、あえて三谷さんと津田さんがもともとまとめたという製造者責任の部分に触れたら、三谷さんも苦笑せざるをえなかったっていう事態があったみたいですけど、それからいったって、議会全体としては今そういう雰囲気はあるわけじゃないですか。だとすれば、どこかの機会に知事に言わなきゃいけないし、少なくともこれだけ約束事をずらしてきていることについて、議会自身が毅然とした態度を示さなければ、どこまで

も甘えますよ。そんなことで議会は、だから私から言わせればなめられているに等しい。そういうことを果たして改革先進議会と言われた三重県議会が放置していいんですかね。

(議長) 厳しいご指摘を含めたご質問だと思いますけれども、そういう一面性はあるかと感じていますが、だからといって、皆さん方の前でそれをここで申し上げるには至りませんが、十分それを承知しながら、今後、皆さま方のご意見も受けとめながら、しっかりと議会としても評価をさせていただきたいと思ひますし、代表者会議やそれぞれの会議の場で各議員からご指摘あれば、協議をしていかななくてはいけないのかなと思ひております。

(質問) さっき前知事と比較して、今の人の人柄であるとか、ちょっと溝があるような感じのことをおっしゃったんですけど、これはブラジル行かれて、あれだけ寝食共にされて、その溝というのは埋まらなかったんですか。

(議長) 個人的なことは置いといて、ブラジルへ行ったからそれが埋まるとか埋まらないかというのは、ちょっとすぐには当てはまらないわけですが、私からすると、知事のお姿、お気持ちやお人柄というのはよく分かってきたと言ったほうが正しいんですかね。よく分かってきたというのが正しい評価でございます。やっぱりこういうタイプの方だったのかとか、具体的に申し上げるのは控えますけども、そういうことがよく分かってきたというのが正しい評価です。

(質問) それはプラス評価ですか。

(議長) 物事というのはプラスもあればマイナスもあるわけで、それはちょっと、そういうタイプが分かるということは、様子が分かるということは、それを持って、私も議長として私の様子も分かっていたのではないかなと思ひます。

(質問) さっき三谷さんの話出しましたけど、三谷さんは知事を決して悪い人じゃないと、私もそれには同意しますが、一見知事のことですね。ただし、この前8月に県市長会の会長が末松さんから前葉さんに替わりました。前葉さんはその挨拶で、今の一見知事と県市長会との間には溝があると、これから県市長会の要望は副知事にお願いすると、冗談めかして言って、誰もそれに対して反対しなくて、むしろ笑っていたらしいんですけど、市長さんたちは。それからいったって、やっぱり県市長会一つとっても知事には今溝があるわけでは

よ。選挙は人を磨くと言うけど、受かって落ちても。だけど、前回の選挙ってほとんど選挙にはしてないから、磨かれてないまま今知事になって、しかも本当にやりたくてやったのかどうかも分からないような相乗りの候補じゃないですか。それからいったら、次の2年後に同じような形で出てきたときには非常に厳しいと思いますし、対抗馬出る出ないは別にして。だけど、その辺のことをやっぱり議会としてこうじゃないかと、特に自民党さんはそうだと思うけど、知事に何らかのやっぱりサジェスチョンなり支えをしないと、この政権は持たないんじゃないですかね。

(議長)ご指摘の点については、この場でコメントしませんが、すでに感じている部分が実はありまして、機会をつくって、言いにくいことについては、私からも知事に進言をしていきたいと思えます。

(事務局)一点補足をさせてください。先ほど申し上げました若者の投票率につきましては、選挙管理委員会からいただいております抽出調査による数値でございます。その点補足させていただきます。

(質問)よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(議長)ありがとうございました。また来月よろしくお願ひいたします。

(以上) 11時21分 終了